

通信事業者が オープンソース戦略 を採用すべき5つの理由

一晩で達成できるもの
ではありません。

ここでは、組織のアジリティを高め、
デジタル・トランスフォーメーション
を成功させるためのポイントを解説します。



マルチクラウド環境における サービスポータビリティを実現

オフプレミス、オンプレミスを問わず、
特定のクラウド環境に縛られることなく
業務支援システム (OSS) とビジネス
サポートシステム (BSS) のワークロード
を稼働させ、必要に応じてオンオフを切り
替えられる柔軟性が必要です。

オープンソースを採用するメリット:

- 特定のプラットフォームに依存しない
- ベンダーロックインを回避し、ハイブリッド・クラウド環境でアプリケーションをデプロイ可能
- ユースケースに最適なものを自由に選択可能
- ワークロードやアプリをドメイン間で移動



レガシーシステム との統合

レガシーOSS/BSSのモダナイズを
進めるプランが必要です。

オープンソース技術のメリット:

- マイグレーションの方針やペースを自由に設定可能
- レガシーアプリケーションと新しいアプリケーションを混在して運用、またはリファクタリングを実施
- クラウドネイティブなアプローチでOSSとBSSを運用することにより、短期的な成果と長期的な成果を達成可能に



将来のビジネス要件や技術 の変化への適応

オープンソースプラットフォームを活用することで、
新しいビジネス要件や技術に素早く対応できます。

オープン標準化のメリット:

- 常に化するニーズに素早く対応
- 新しいサービスやアプリケーションの展開を加速
- スケーラビリティを確保



オープンソース協働による イノベーションの促進

オープンソースによる協働体制には大
きなメリットがあります。

Red Hatのオープンソース技術
を活用するメリット:

- オープンフォーラムで効率良く問題を解決可能
- オープンソースコミュニティの知識や優秀な人材を活用し、より優れたソフトウェアを開発可
- 協働によるイノベーションの促進



リスクの軽減および セキュリティの強化

分散開発により、不具合のリスクを
軽減できます。

オープンソース協働のメリット:

- リスクを抑えながら、ソフトウェアの更新とバグ修正を実行
- インターフェースの標準化による可視性セキュリティの向上
- セキュリティ管理を強化し、アプリケーションスタックの保護を徹底

初期の段階でクラウドネイティブな
オープンソースプラットフォームを
導入することが重要です。開発の
共有化を進めることで、コストを
抑えながら柔軟性を高め、顧客の
ニーズに寄り添った新機能を提供
できるようになります。

今すぐスタート >



1 451 Research チーフアナリスト、エリック・ハンセルマン著「オープンvRANのセキュリティ上の利点」(2020年5月、Red Hat委託)